



O-RAN ALLIANCE が定める国際規格に基づく 基地局等の機器の試験・認証拠点「Japan OTIC」による第1号の認証を発行

一般社団法人 YRP 研究開発推進協会と株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社及び楽天モバイル株式会社が共同で設立・運営している「Japan OTIC (ジャパンオーティック)」は、2023年6月16日、第1号の認証を発行いたしました。Japan OTIC による認証により、機器メーカーにとっては採用・参入機会の拡大、通信サービスにとっては機能高度化/開発導入期間の短縮といった効果が期待されます。

第1号認証の概要

認証 ID	発行の日	認証/バッジ	インターフェース	技術	製品カテゴリ
JPOT230001	2023-06-16	認証	OFH	5G NSA/SA	O-RU

製造者	モデル名	ソフトウェア	ハードウェア	認証 OTIC
NEC Corporation	MB5450	v01.22	MB5450-m878	Japan OTIC

Japan OTIC について

Japan OTIC は、移動通信の各種機器の相互接続を可能とする国際的な規格である O-RAN ALLIANCE が定める標準仕様 (O-RAN 仕様) に基づく試験・認証を行う拠点として、2022年12月、横須賀リサーチパークに設立されました。Japan OTIC の設立・運営は、一般社団法人 YRP 研究開発推進協会を代表に、4社の通信事業者が共同で行っています。国内の複数の通信事業者が共同で試験・認証拠点を設立・運営する体制は、世界で初めてであり、国内の通信事業者が一丸となってオープン化の促進をめざしています (注①・注②・注③)。

Japan OTIC は、O-RAN 仕様に基づいた、中立的でオープンな相互接続性の検証環境を提供し、通信事業者の経験を用いて各種機器の機能を試験し、仕様に適合することを認証しています (注④・注⑤)。

Japan OTIC の活動は、日本の情報通信分野のサプライチェーンのオープン化、活性化、多様化、海外展開を進め、日本はもとよりグローバルに、よりオープンでより確実・安全な 5G 通信社会の実現に貢献します (注⑥)。

なお、Japan OTIC の設立・運営にあたり、総務省が実施した研究開発や調査*の知見が活用されています。

*令和4年度周波数ひっ迫対策技術試験事務「オープンな規格を用いたマルチベンダー基地局の相互運用性向上のための技術的検討」等

当リリースの配布先：総務省記者クラブ、テレコム記者会、横須賀市政記者クラブ

■ 本発表に関するお問合せ ■

Japan OTIC 代表会員 一般社団法人 YRP 研究開発推進協会 担当：鳥越、大矢、山口
TEL：046-839-0222

注① O-RAN ALLIANCE

O-RAN ALLIANCE は、5Gをはじめとする次世代のオープンで高度な無線アクセスネットワークの構築を目的に、AT&T、チャイナモバイル、ドイツテレコム、ドコモ、オレンジの5社が設立メンバーとなり、2018年にドイツのボンに設立されました。現在、世界の通信事業者32社*とメーカー等の合計321社*が参加して、国際的な無線アクセスネットワークのオープン化、仮想化、インテリジェント化のために相互接続可能なインターフェースの国際的な標準仕様を定めるなどの活動を展開しています。

*O-RAN ALLIANCE ホームページに掲載（2023年6月20日時点）



WEB サイト

<https://www.o-ran.org>

注② 横須賀リサーチパーク（YRP）および一般社団法人 YRP 研究開発推進協会

日本における Japan OTIC は、横須賀リサーチパーク（YRP）に一般社団法人 YRP 研究開発推進協会を代表会員として設立されました。

横須賀リサーチパーク（YRP）は、1997年10月に、神奈川県横須賀市に開設された全体面積約58.8ヘクタールの通信分野の研究開発エリアです。実験電波が域外へ漏洩するリスクが少ない地形を生かして、電波を用いる次世代の通信技術の実証実験の場として、日本電信電話株式会社、株式会社NTTドコモ、国立研究開発法人情報通信研究機構など、国内外の有数の情報通信関連の研究機関が集積するエリアとなっています。



2020年12月に一般社団法人となったYRP研究開発推進協会は横須賀リサーチパーク（YRP）に集積する情報通信関連の企業・研究機関の連携、共同研究を推進し、情報通信分野の研究開発の拠点の形成、総合的政策の牽引、基盤の整備を担っています。

注③ Japan OTIC の設立・運営団体

Japan OTICは、一般社団法人YRP研究開発推進協会を代表会員に、下記の4社の通信事業者が共同で設立・運営を行っています。

代表会員：一般社団法人YRP研究開発推進協会

会 員：株式会社NTTドコモ

KDDI株式会社

ソフトバンク株式会社

楽天モバイル株式会社

注④ Japan OTIC の活動

Japan OTIC は、O-RAN 仕様にそった、中立的でオープンな相互接続性の検証環境を提供し、基地局等の機器を試験し、国際的な規格である O-RAN 仕様に適合することの認証を行っています。これにより、O-RAN 仕様の普及とオープン化の促進に貢献します。

Japan OTIC の活動

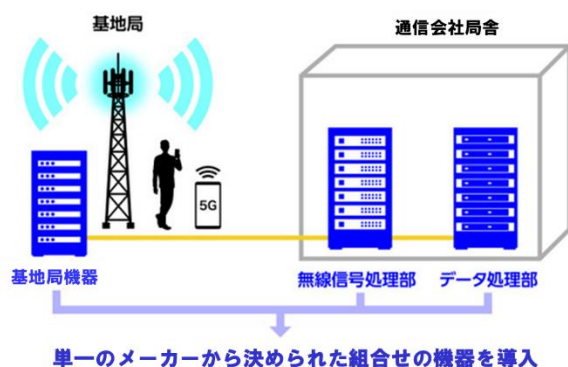
- 中立的でオープンなポジション
- O-RAN 仕様にそった相互接続性の検証環境の提供
- 基地局等の機器の試験
 - コンFORMANCE試験、
 - 相互接続性試験、
 - End to End 試験
- O-RAN 仕様適合の認証
- 試験・認証のサポート
- O-RAN 仕様の普及、オープン化の促進

注⑤ 国際的な規格による認証の効果

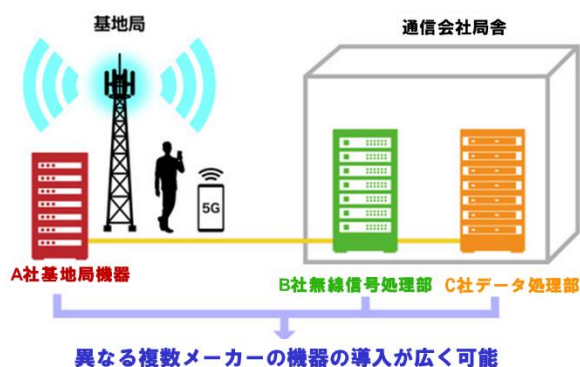
国際的な規格ができる前の基地局の機器は、通常、その内部構成がメーカー独自の構造となっており、単一のメーカーから決められた機器の組合せを導入するのが一般的でした。

異なるメーカーの機器を接続するインターフェース仕様を定め、相互接続に関する認証を行うことにより、基地局に異なる複数メーカーの機器の導入が広く可能になりました。

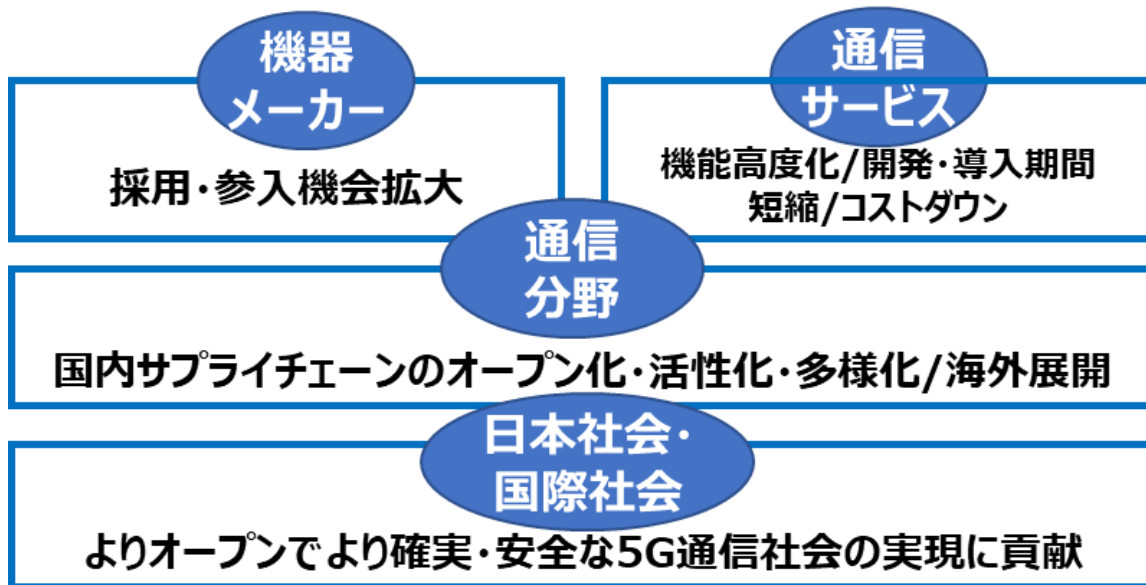
国際的な規格ができる前の一般的な基地局装置の導入



国際的な規格の仕様に基づき認証された基地局装置の導入



注⑥ Japan OTIC の効果



(注)

- ※Japan OTIC の名称とそのロゴは商標または登録商標です。
- ※O-RAN ALLIANCE、O-RAN の名称とそのロゴは、O-RAN ALLIANCE e.V. の商標または登録商標です。
- ※一般社団法人 YRP 研究開発推進協会の名称とそのロゴは商標または登録商標です。
- ※その他、当プレスリリースに掲載の商品名称やサービス名称などは、一般に各社の商標または登録商標です。
- ※当プレスリリースにおける各社の商標記載においては™や®などの商標表示を省略する場合があります。